# WebParaNews を利用した Web 版 DDL 教材の開発

中條清美\*, アントニ・ローレンス\*\*, 内山将夫\*\*\*, 西垣知佳子\*\*\*\*

#### Developing Web-based DDL Tasks Using WebParaNews

Kiyomi CHUJO\*, Laurence ANTHONY\*\*, Masao UTIYAMA\*\*\* and Chikako NISHIGAKI\*\*\*\*

# Keywords: WebParaNews, Web-based DDL, Data-driven Learning, Grammar Instruction, Noun Phrase

#### 1. はじめに

コーパスを利用した言語学習は、データ駆動型学習 (Data-driven Learning: DDL) と呼ばれる。DDL では, コーパス検索から得られた用例を見て学習者自身が文法 の規則性を発見する帰納的学習が可能であり、新しい言 語学習の方法として期待されている。しかしながら,コー パステキストの難易度やコーパス検索ツールの操作性の 問題等があり、コーパスの英語教育への導入例は、世界 的に見ても多くない(Johansson, 2009)<sup>1)</sup>。それに対して 中條らは,過去8年間,DDLに日本人学習者のための工 夫を加えた上で、一般英語授業で DDL を用いた指導実 践を行ってきた。例えば、一般に DDL では、検索用コー パスに新聞,雑誌,論文等,自然な英文テキストを利用 するため、検索結果の英文が、日本人学習者には難しく、 理解困難なことが多い。そこで、英文に対応する日本語 文が示される日英パラレルコーパスを使って, 学習者の 英文理解の負荷や不安を軽減した(中條・西垣, 2009)<sup>2)</sup>。 また, DDL 検索作業が導く帰納的学習と, 教師が与える

明示的説明による演繹的学習を組み合わせて,仮説形成 から仮説検証を経て,プロダクションへと向かう英語授 業をデザインし,実践を行い,効果を検証してきた (Chujo, Anthony, Oghigian & Uchibori, 2012)<sup>3)</sup>。

こうした実践成果を踏まえ,アントニを中心に,多言 語 DDL の推進をめざして,ユーザーフレンドリーな二 言語コーパス検索エンジン AntWebConc-Parallel の開 発を 2008 年に開始した。その後,検索スピードやコン コーダンス 画 面 の仕様の 改善を積み 重ね (Anthony, Chujo & Oghigian, 2011)<sup>4</sup>, 2011 年には教室および家 庭で DDL を実践できる実用レベルに達した。

2012年に、中條・アントニ・西垣(2012)および中條・ 西垣・アントニ・内山(2012)<sup>5),6)</sup>は著作権の問題をクリア できた日英新聞記事対応付けデータ(内山・井佐原、 2003)<sup>7)</sup>を多言語検索エンジン AntWebConc-Parallel で 検索できる WebParaNews のサイトを開発し無償公開 した (http://www.antlab.sci.waseda.ac.jp/webpar anews/)。**Fig.1**に示す Web 検索サイト WebParaNews は、操作性を重視し、教師・学習者向けに開発したもの である。こうして英語と日本語で用例が併記された、日

<sup>\*</sup>日本大学生産工学部教養・基礎科学系教授

<sup>\*\*</sup>早稲田大学理工学術院教授

<sup>\*\*\*</sup>情報通信研究機構主任研究員

<sup>\*\*\*\*</sup>千葉大学教育学部教授



Fig. 1 A Screenshot of "organization \*ing" Using WebParaNews

英新聞パラレルコーパスを無償で利用することが可能と なった。

本稿の目的は、コーパスを利用した DDL の普及に向 けて、WebParaNews を利用した大学初級レベル英語学 習者対象の DDL 指導実践について、特に DDL タスクの 実例を中心に報告することである。

### 2. WebParaNews を利用した DDL 教材の指導 手順

#### 2.1 シラバス

WebParaNews を利用した DDL において指導する言 語形式は, Uchibori, Chujo & Hasegawa (2006)<sup>8)</sup>の結 果に基づいて, 英語コミュニケーション能力の養成に有 効であることが検証されている「名詞句構造」とした。 指導目標の重点を, Table 1 のシラバスに示したように, 名詞句の仕組みを理解するとともに, 文中に存在するま とまりとしての名詞句を認識する能力の向上に置いた。

#### 2.2 指導手順

WebParaNews を利用した DDL 実践授業の概要を Table 2 に示した。参加者は TOEIC 350 点レベルの理工 系大学1年生15人であった。WebParaNews を用いた コーパス検索作業を通じた帰納的学習と,教師による明 示的説明を加えた DDL を 2012年前期に10回実施し た。指導効果の検証には,3種類のテスト,すなわち, 文中の名詞句に下線を引く名詞句境界の把握テスト,

Unit	Noun Phrases		
1	品詞の区別		
2	派生と屈折		
3	可算・不可算名詞		
4	名詞句構造(限定詞+修飾語句+名詞)		
5	名詞句構造(限定詞+修飾語句+名詞+後置修飾語句)		
6	名詞句構造(現在分詞-ing)		
7	名詞句構造(過去分詞-ed)		
8	名詞句構造(後置修飾語句 to-不定詞)		
9	名詞句構造(後置修飾語句 who, which, that)		
10	多様な名詞句		

 Table 1
 Web-Based DDL Syllabus

学習目標	コミュニケーションに必要な文法の習得		
学習環境	CALL 教室を使用		
学習者	大学1年生15人(TOEIC 350 点)		
DDL 指導時間と期間	40 分×10 週(前期 15 週のうち)		
指導内容	名詞句構造に関する知識		
検索サイト	http://www.antlab.sci.waseda.ac.jp/webparanews/		
パラレルコーパス	日英新聞コーパス(内山・井佐原, 2003)		
プリ・ポストテスト	名詞句テスト (3種類)		
質問紙調査	5段階評価,自由筆記		

**Table 2**WebParaNews DDL Case Study

 Table 3
 WebParaNews Teaching Procedure

Step 1	前回の文法フォローアッププリントの解答	前回 Step 4の明示的	全体学習
復習		説明	(10分)
Step 2	WebParaNews を用いた DDL(検索対象語句を示	何らかのパターンを自	ペア学習
DDL	したワークシートを使用)	ら抽出	(25 分)
Step 3	教師の DDL 文法項目の明示的説明	気づいたことに対する	全体学習
説明		知識の裏付け	(4分)
Step 4 まとめ	文法フォローアップ(復習)プリントの配布	まとめと宿題の指示	全体学習 (1分)

TOEIC 文法問題と同一形式の文法テスト,名詞句の部 分を英訳するテストを実施した。事前テストを DDL 指 導開始前に,事後テストを指導終了後に実施した。事前・ 事後テストは同一のテストを使用した。また,毎回の指 導終了後には自由筆記により参加者の感想を収集した。

Table 3 に、実際の授業における約 40 分の DDL 学習 活動の指導手順を示した。指導の流れは、復習、DDL 活 動、説明、まとめという構成である。最初に、前の週の 文法フォローアッププリント(宿題)の解答と解説をお こない、次に WebParaNews を用いた DDL 学習、その あとが教師の明示的説明である。最後に一連の指導のま とめをおこない、文法フォローアッププリント(宿題) を配布する。

本実践における DDL 学習では, DDL タスクを通して 目標言語形式に対する気づきと帰納的理解を導く DDL ワークシートを印刷して配布し,利用した。本稿で紹介 する DDL タスクの例は,情報通信研究機構より購入し た読売新聞の日本語文と, Daily Yomiuriの英語文を対 応付けた日英パラレルコーパスを Web で検索するもの で,検索対象語句と学習活動の具体的な指示を示した。 3節では, DDL ワークシートの具体例を紹介する。

#### 3. Web 版 DDL タスク

本節では、名詞句構造を学習する Unit 10 回分で用い られたタスク例について、各 Unit のタスクのねらいと、 そのタスクを遂行することによってどのような文法知識 が身につくか等について述べる。なお、本稿は、中條・ 内堀・西垣 (2011)<sup>9)</sup>のペーパー版 DDL タスクを Web 版 DDL タスクに発展させたものである。

各 Unit で用いられる DDL ワークシートには, 実際の DDL 検索学習活動約 25 分で使用されるおよそ 5 個のタ スク例が示されている。DDL ワークシートは, 学習者が パートナーと相談しながら, 協働して DDL を進められ るように構成されている。

タスクの概要を示すには、ワークシート中のタスク例, Web 検索画面, 解答の入ったワークシートの三者を掲載 することが望ましいが,本稿では紙面の制約により,三 者を適宜混在させて示した。したがって,学習者用ワー クシートのみを示した場合,検索結果画面を示した場合, また,検索結果画面に囲みや下線を書き加えて解答を示 した場合があることに留意されたい。

#### 3.1 語形変化に関するタスク

Fig.2 と Fig.3 は, 語形変化に関するタスクである。



Fig. 2 Unit 1 Word Classes : Introduction to WebParaNews



Fig. 3 Unit 2 Derivations and Inflections

学習者がこれまで接してきた単語の派生や屈折による語 形の変化を実際の用例の中で認知させ、各々の形が文の 中でどのように現れ、どのような機能を果たしているか を確認させるねらいがある。〈protect\*〉の「\*」はどんな パターンにもマッチする特殊文字であるワイルドカード を示す。なお、Fig.2とFig.3の一部のタスクには解答例 と検索結果画面を示した。検索結果画面は学習者用ワー クシートには付いていないが、パソコンが利用できない 教室でDDL 学習を実施する場合には、このような画面 を印刷したペーパー版ワークシートを作成することも可 能である。

各ワークシートの最後のタスク(Unit 1 および Unit 2の6)に相当する)は、学習者各自がその時間の学習内 容を振り返りながら仮説形成を行うのに有効である。ま た,教師が学習者の理解を把握することによって次回の 指導内容の示唆を得るのに役立つ。Unit 1の6)の実際 の記述例には、「語尾についている語によって品詞が変わ ることがわかった」「同じ形でも違う品詞になる語もあ ることがわかった」「語尾についている語を知らないと 何の品詞かわかりづらい」「検索語だけでは品詞が何か わかりにくく、検索語の周りを見る必要があることがわ かった」などがあった。特に、句の中心となる要素と、 それ以外の要素との関係を理解する必要があることの気 づきへの導きがうまく図られていることが確認できる。 そして, Unit 2の6)の記述例には,「後ろに名詞がくる 場合は形容詞であることが多い」「-ingの形で現在分詞 の時と形容詞の時の区別が難しい」「前後の語をしっか り吟味しないと品詞はわからないものがある」「前後の 語で品詞が判断できることがわかった」という感想が得 られた。これらの感想から、語形によって品詞の区別が できることを認識させ、また、品詞に応じてその語の左 右の要素が決まることを学習者に見出させるという

Unit 2の目標がある程度達成されていることがわかる。 3.2 可算名詞・不可算名詞の区別に関するタスク

**Fig.** 4 は可算名詞·不可算名詞に関するタスクである。 用例の観察から,(1)可算名詞は「s」が付く時と付かない 時の両方の場合があり,かつ,それぞれ左に来る語が異 なること,(2)不可算名詞は形が変わらず,また,左に来 る語が可算名詞と異なること,に気づかせることを目的 とする。具体的には,Fig.4のタスクの2)より, homeworkは「s」が付かないこと,左に来る語句が much (homework), a great deal of (homework), a lot of (homework) であることがわかる。Fig.4の タスクの1)と2)より学習者からは、「sが付かない複数 形もあることがわかった」「『たくさんの』を表すだけで もいろんな種類があることがわかった」「可算名詞と不 可算名詞の見分け方がわかった」「複数形にする時の語 尾の-yの変化がわかった」という感想が得られた。

#### 3.3 名詞句構造に関するタスク

Fig.5 および Fig.6 のタスクの目的は,実際の用例を 通じて,「限定詞+修飾語句+名詞+後置修飾語句」とい う名詞句構造が,様々な形で英文に出現することを学習 者に気づかせることである。図の一部のタスクについて 解答例や検索結果画面を示した。また,Fig.6 には,解答 例として名詞句に下線を引き,head noun をマルで囲ん だ検索結果画面を付けた。

指導実践の結果,主に前置修飾語句に焦点を置いた Fig.5のタスクの感想には,「名詞の前は形容詞が来るこ とが多い」「名詞の後にも説明がくるものが多いことが わかった」「どこまで名詞の説明なのかがわかった」とい うものが多かった。一方,前置詞句などの後置修飾語句 にも焦点を置いたFig.6のタスクの感想として,「名詞 の前後にはだいたい説明がある」「英語では文の後半に 説明を付け足していく」「名詞の後の部分の説明がどこ

1) Sampled Hits を 50 に設定して次の単語を検索し、その名詞の単数形と複数形を調べてみよう。							
1. <b>boss</b>	* 2. information*	3. employee*	4. furniture*	5. machiner*			
6. <i>expe</i>	rience* 7. president*	8. responsibilit*	9. clothing*	10. <i>cost</i> *			
2) homen	2) homework*を検索して、その複数形を調べてみよう。また、「たくさんの宿題」は英語ではどのように						
表現されているか調べてみよう。							
	d forced him to do their	English homework an	d had practiced w	vrestling techniques (			
	But Turkey mus	t do its homework be	fore it can join	the rest.			
	Japan 1	nas much homework to	do.				
$\Box_4$	regarded as an important	item of homework fo	r the internation	nal community.			
	in which to do a great	deal of homework sc	the Earth can be	e saved from a			
□6	s construction industry a	a lot of homework to	do.				
$\square_7$	lls on consumers to do t	neir own homework to	reduce the harmi	ful effects on the env			
□8	trade only when it does	its own homework to	help maintain fi	ree trade.			
و 🗆	nd auto industry should	do their homework, t	oo, to correct th	ne trade imbalance, by			
3) 今日の	学習でわかったことを書こう	) <sub>o</sub>					

Fig. 4 Unit 3 Count & Non-Count Nouns



Fig. 5 Unit 4 Noun Phrases (Determiner+Adjective+Noun)



Fig. 6 Unit 5 Noun Phrases (Determiner+Adjective+Noun, Determiner+Noun+Prepositional Phrase)

までなのかが難しかった」という感想が得られた。

#### 3.4 後置修飾語句に関するタスク

Fig. 7 から Fig. 10 のタスクのねらいは,特に日本語 話者にとって習得が難しい後置修飾語句などの構造上の 各部位を,具体的な例から認識させることである。Fig. 7 のタスクでは現在分詞が2語以上で名詞の後置修飾語句 となることを用例から学習者に見出させることを目的と している。Fig. 8 では,1)のタスクで過去分詞が1 語で 名詞の左隣に生じて名詞を修飾する働きをしていること を,続いて,2)から5)のタスクで,過去分詞が2 語以 上で名詞の後置修飾語句となることを,用例から学習者 に見出させることを目的とする。これら2 つのユニット の授業後の感想には,「名詞は単体ではあまり用いられな い」「修飾する語が長い時は名詞の後ろから修飾する」 「現在分詞あるいは過去分詞は1 語の場合は名詞を前か ら修飾し,他の語句をともなって2 語以上になると後ろ から名詞を修飾する」というものがあった。

Fig.9は、名詞の後ろの不定詞節に気づかせるタスク 例である。今まで学習者が「不定詞の形容詞的用法」と して学んできた知識を、名詞句構造の中に位置づけさせ ることができると期待される。Fig.10のタスクは、今ま で学習者が「関係代名詞」として学んできた知識を、名 詞句構造の中で後置修飾語句の1つとして位置づけさ せ、より有効に「関係代名詞」に関する文法知識を働か せられるようにすることを目的としている。また、関係 代名詞の接触節の例を提示することで、実際にそのよう な例が起こっている場合のいわゆる目的格について認識 を新たにさせることができる。

本節のワークシートでは,解答例として,名詞句に下 線を引き,head noun をマルで囲んだ検索結果画面を付 けた。また,本節の各ユニットの最初のタスクは,英語 初級レベル学習者が実例から目標言語形式のパターンに ついての仮説形成を導きやすくするために,検索結果画 面をワークシートに印刷したものを載せて、「名詞句につ いて,名詞にマルを付け,前後の説明部分を含めて下線 を引こう」という書き込み形式のタスクにした。そのよ うにして計画的,意図的に,まずパターンを学習者自身 に確認させた後,2番目のタスクから自分で実際に検索 した結果から名詞句を見出せるように導いた。

#### 3.5 まとめのタスク

**Fig. 11**は、まとめのUnit であり、形容詞や接辞より 出力された実例から名詞句を見出すタスクである。図に は解答例として、名詞句に下線を引き、head noun をマ ルで囲んだ検索結果画面を付けた。



Fig. 7 Unit 6 Noun Phrases Followed by -ing

1.1	この回は111111111111111111111111111111111111
	この図は WebParaNews でいろいろな「書かれた」「もの(名詞)」を検索した結果の画面を印刷したもの
です	~。最初に「(書かれた)もの」をさがしてマルを付け,次に,「(書かれた)もの」を説明している前
後の	D説明部分に下線を引こう。
1	stry, the South Korean government sent a written protest to the Japanese government after Tokyo confi
2	nt of international mail bears addresses written in English.
3	splay that can read and input images and written characters.
4	Natural rights are stronger than any written laws, including the Constitution, in the sense that
5	. oblige financial institutions to obtain written consent from consumers when gathering confidential :
6	s own words, instead of reading a report written by bureaucrats.
2) <i>i</i>	a_book_*ed を検索 (Hits 5)しよう。book の前後の説明部分を書き出しましょう。
1	ple who should have been their friends," $a(book)$ titled "Amerasian School" said.
2	He details his proposals in a book published by Nikkan Kogyo Shimbun, Ltd. Arai's
3	in Xining, Qinghai Province, to protest a book published in Sichuan which they claimed insulted
4	Center for Japanese Studies has written a book titled "A Treatise on Wealth and Virtue"
5	edish socioeconomist Gunnar Myrdal wrote a book called "Asian Drama," predicting political, social ar
3) a	conference_*ed_by を検索し, conference を中心とする名詞句を書き出そう。
1	e the association will attend the annual conference convened by the National Paper Traders' Association
2	time for Japan to host an international conference attended by top leaders in the region.
3	During an international conference organized by Interpol and other police organizatio
4	couple of years ago, I attended a major conference) organized by the Peace Research Institute in Norwa
5	The Washington Conference proposed by U.S. President George Bush had three
4)	<i>money_*ed_by</i> を検索し, <i>money</i> を中心とする名詞句を書き出そう。
1	"It is only natural for the amount of money donated by children and by adults to differ.
2	of entertainment and massive amounts of money received by them from a credit association.
3	to 20 billion yen every year, of tax money wasted by the administration.
4	ic funds, which will include part of the $\widehat{\mathrm{mone}}$ generated by the sales of the artwork.
5	ing and other LICB group companies using winey loaned by the bank, the sources said.
5) *:	s_sent_from を検索し, いろいろな 「送られた」 「もの(名詞)」 およびその前後の説明部分を書き出そう
1	Coaches sent from Jubilo help these players fulfill their
2	s that can receive, transmit and display (mage) sent from spacean area that is expected to
3	eton employees to put client information (ist) sent from Cresvale International Ltd., its Tokyo branck
	stmas tree, decorated with encouragement messages sent from all over Japan, in front of
4	

Fig. 8 Unit 7 Noun Phrases Followed by -ed



Fig. 9 Unit 8 Noun Phrases Followed by to-infinitive

## 4. WebParaNews を利用した Web 版 DDL の 評価とまとめ

WebParaNews を使用した DDL 指導の効果を検証す るために、学習開始時(4月)と授業終了時(7月)に 名詞句テストを行い、その得点上昇量を調査した。名詞 句境界把握テストでは35.6点、TOEIC 形式の名詞句テ ストでは16.0点、名詞句作文テストでは9.1点の得点上 昇があった。学習者数が15名と少なかったため、ノンパ ラメトリック手法のウィルコクソンの符号順位和検定を 使って得点上昇を統計的に検証したところ、名詞句境界 把握テスト(z=3.41)と TOEIC 形式の名詞句テスト (z=3.06)では危険率1%、名詞句作文テスト(z=2.03) では危険率5%で有意な上昇であったことが確認され た。したがって、WebParaNews を利用した DDL による 名詞句構造の指導は文法力の向上に一定の成果があった と判断した。

次いで、WebParaNewsの操作について学習者が評価 した結果では、家でも自由に使えるアクセサビリティ(5 段階評定で4.3)、直感的に操作できるインターフェース (5段階評定で4.0)、ソフト画面のデザイン(5段階評定 で4.0)と検索スピード(5段階評定で4.4)の点におい て適切であるという肯定的な評価が得られた。

WebParaNews は 2012 年 8 月に無償公開されたが, 本稿で報告したような実践結果から,今後,教育におけ るコーパス利用の推進に貢献できることが期待される WebParaNews は http://www.antlab.sci.waseda.ac. jp/webparanews/より自由にアクセス可能である。



Fig. 10 Unit 9 Noun Phrases Followed by who, which, that

謝辞:本研究は平成 21-24 年度科学研究費補助金基盤研究(B)(21320107)を受けて行われました。

#### 参考文献

- Johansson, S., Some Thoughts on Corpora and Second-language Acquisition, in Aijmer, K. (ed.), *Corpora and Language Teaching*, Amsterdam, John Benjamins Publishing Co., 2009, 33-44.
- 2) 中條清美,西垣知佳子,「実践報告:パラレルコーパ スを活用した学習者中心の英語授業」,英語コーパス 学会第33回大会,神戸大学,2009年4月25日.
- 3) Chujo, K., Anthony, L., Oghigian, K. and Uchibori,

A., Paper-Based, Computer-Based, and Combined EFL DDL Approaches Using a Parallel Web-Based Concordancer, *Language Education in Asia*, 3(2), 2012, 132-145.

- 4) Anthony, L., Chujo, K. and Oghigian, K., A Novel, Web-based, Parallel Concordancer for Use in the ESL/EFL Classroom, in Newman, J., Baayen, H. and Rice S. (eds.) Corpus-based Studies in Language Use, Language Learning, and Language Documentation, Amsterdam/New York, Rodopi Press, 2011, 123-138.
- 5) 中條清美, アントニ・ローレンス, 西垣知佳子, 「日 英パラレルコーパス検索サイトの公開-開発と実践



Fig. 11 Unit 10 Various Noun Phrases

利用-」,外国語教育メディア学会(LET)第52回 全国研究大会,甲南大学岡本キャンパス,2012年8 月8日.

- 6) 中條清美,西垣知佳子,アントニ・ローレンス,内 山将夫,「二言語コンコーダンサーWebParaNews と AntPConc を利用した DDL 授業の実践」,英語 コーパス学会第 38 回大会,大阪大学,2012 年 9 月 29 日.
- 7)内山将夫,井佐原均,「日英新聞の記事および文を対応付けるための高信頼性尺度」,『自然言語処理』,10

(4), 2003, 201-220.

- 8) Uchibori, A., Chujo, K. and Hasegawa, S., Towards Better Grammar Instruction: Bridging the Gap between High School Textbooks and TOEIC, Asian EFL Journal, 8(2), 2006, 228-253.
- 9) 中條清美, 内堀朝子, 西垣知佳子, 「日英パラレルコー パスを利用したペーパー版 DDL 教材の開発」, 『日 本大学生産工学部研究報告 B(文系)』, 44, 2011, 33-46.

(H 25.2.10 受理)